彩が丘「福祉のまちづくり」プラン

2022年11月彩が丘町内報告用資料
彩が丘学区社会福祉協議会
彩が丘連合・第1・第2町内会

Ⅰ「福祉のまちづくり」 第3次5か年計画策定活動

将来の彩が丘をどのようなまちにしていきたいか地域の問題として考えるために、「福祉のまちづくり」第３次５か年計画の策定活動を2020年度にスタートさせました。 第１次５か年計画においては、全世帯への住民アンケートにより、明らかになった課題をベースに取り組みを決めてきました。今回は新しい視点として、「彩が丘のありたい姿・彩が丘をこんなまちにしたい」という様々な意見を取り入れてまちづくりについて考えた結果を報告します。

Ⅱ 彩が丘はこんなまち

1) 自然豊かなまち

団地の中を川が流れる景観豊かな団地として開発され、1991年に完成。広島市優秀宅地開発第1号として表彰されました。

2) 様々な地域活動

彩が丘には様々な地域活動があります。

子ども会によるサマーキャンプ(ヤマメのつかみ取り)

ヤマメのつかみ取り

せせらぎ女性会、彩父の会、体協など様々な団体によるヤマメの調理支援

社会福祉協議会による日帰りバス旅行

町内会・公衛協による城六川清掃

彩の市(第1,第3土曜日 10:00～)

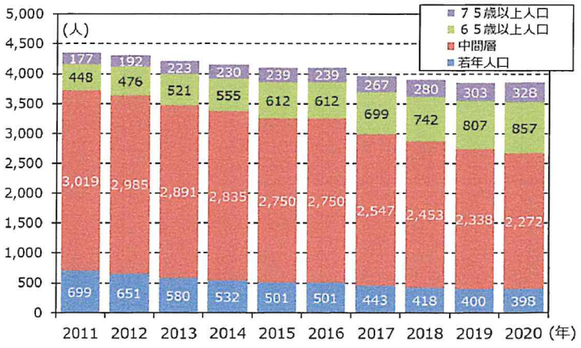
Ⅲ データで見る彩が丘

1) 年齢分布の推移(10年前との比較)

① 子ども達が成長・独立して彩が丘から離れてしまっている。
② 大人たちの年齢分布が高齢化している。
③ 高齢者の人口が増加している。

2) 全体の人口推移

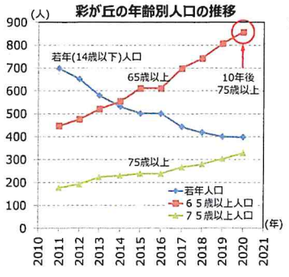
① ここ10年間で彩が丘の人口は約11%減少
② 若年層(14歳以下)、中間層(15～64歳)の人口が大きく減少

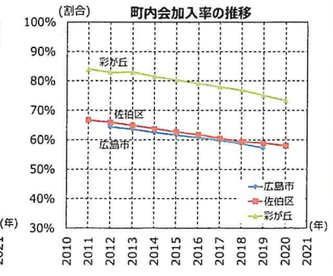


3) 年齢別人口の推移と町内会加入率の推移

① 65歳以上の人口が増加するとともに、今後は75歳以上の人口が急速に増加すると予想される。

② 町内会加入率は広島市や佐伯区に比較すると15%程度高い状態だが減少傾向は顕著である。





Ⅳ 彩が丘のありたい姿 ・こんなまちにしたい

～大人の視点から

高齢者が健康でいつまでも住み続けたいと思えるまち

彩が丘らしい子育て支援があり、安心して子育てができるまち

スーパーやコンビニが無くても、楽しく買い物ができる機会があるまち

子ども達にとって楽しい思い出がたくさんあるまち

やさしさと笑顔があふれる
支えあいのまち。みんな彩が丘が大好き！

ルールがいつもきちんと守られているまち

犬猫糞がない。
ぽい捨てごみがない。
迷惑駐車がない。
安全運転
分別ごみが正しく出されている。

豊かな自然が維持され、いつまでも自然が美しいまち

～子どもの視点から

- 2021年度の6年生に地域活動や街づくりを知ってもらう授業を行うと共に、彩が丘に住んでいて楽しかったことや、こんなものがあればいいのにと思うことを制約を設けずに自由に発表してもらいました。

楽しかったこと

- 彩が丘の自然の中で遊んだことや、祭りの早飲み競争などが楽しかったとの意見が多く出ました。

ヤマメのつかみ取り

川遊び、雪合戦、かまくらづくり

祭りでの早飲み競争

こんなことができたらいいのに

- ショッピングモールやゲームセンターなどの声が多く聞かれた反面、自然を活かしたドッグランや展望台などのユニークなアイデアもいろいろ出てきました。

景色のいいところに展望台

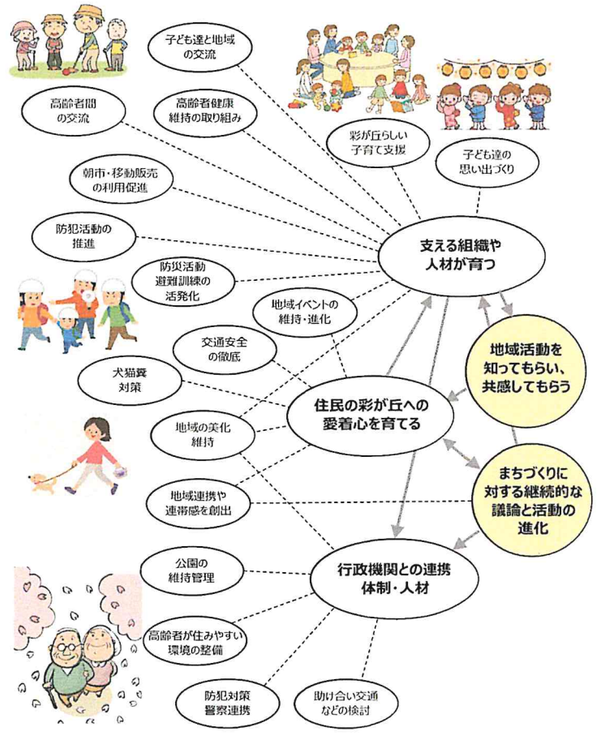
ドッグラン設備

Ⅴ 今後の取り組みについて

1) 優先度を上げて取り組むべきこと

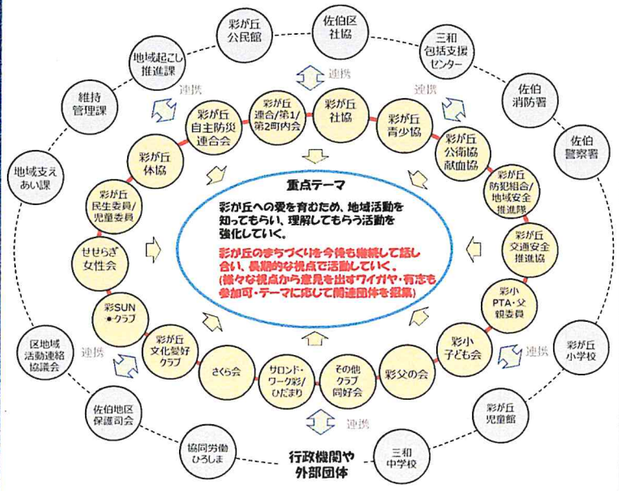
① 彩が丘に愛着心を持ち、みんなが協力しあい、支えあうために地域活動をもっと知ってもらい、共感してもらうことが大切。そのためにIT技術なども積極的に活用していく。

② このような話し合いを一過性のものとするのではなく、継続的に話をしていくことが大切である。



2) みんなでまちづくりを考える

- 様々な視点を持つ彩が丘の団体や有志間で「まちづくり」について話し合う場を継続的に持ち、必要に応じて行政機関など外部団体と協力しあっていくことが地域の活性化に繋がると結論づけた。



皆さんも「彩が丘のまちづくり」に関して話し合う場に参加しませか？
希望される方は彩が丘社会福祉協議会、彩が丘連合町内会、又は彩が丘公民館までご一報下さい。